



# キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2015年1月 Vol. 13

## Bas・Congo Shot! -今月のバ・コンゴ-

### 観光メッカ「マタティ橋」!



表はOEBKロゴ、裏はなんと、コンゴ民の国旗

コンゴの観光名所「マタティ橋」。その維持管理を担うバナーキンシャサ交通公団(OEBK)総裁がJICAの研修で日本を訪問。「日本の橋の近くには、資料館が必ずあって、オリジナルグッズも販売している!」と感銘を受けて帰国。早速オリジナルキーホルダーを作成(現在非売品)。なんと、「マタティ橋資料館」も建設中!! 2014年末には、吊橋の維持には今や必須アイテム「送気システム」導入のための無償資金協力の合意文書署名式が行われました。ますます観光地として魅力高まる、マタティ橋。でも、一番の魅力は、OEBKスタッフの「おもてなし」の心!

## -Bas-Congo Life! -バ・コンゴで生きる-

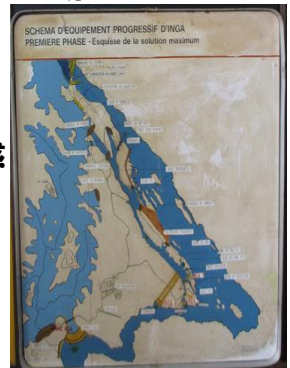
### インガダムと電力事情

世界第2の流域面積を誇るコンゴ河。バ・コンゴ州はその豊富な水が100m近い落差で落ちるといふ、水力発電には持ってこいの地形。これを活かせ!と、ポテンシャルは破格の4万2千MW(世紀の大事業★黒部ダムの約13倍)の水力発電所建設を計画。コンゴ国内のみならず、周辺国への電力供給も可能とするこのメガプロジェクトは「グラン・インガ」と呼ばれ、総工費なんと800億ドル(約9.6兆円)! 電力大国コンゴ!か、と思いきや、この国の電化率は9%とアフリカ最低レベル。70、80年代建設のインガ1、2(計1,575MW)が何とか半分ほど稼働するも、電力アクセスNo1の首都キンシャサですら、停電頻発。稼働の鉱山産業も、多くの工場が電力不足で操業休止。現実ってキビシイ(涙)

この夢の「グラン・インガ」事業、最初の第一歩としてインガ3(4,800MW)の建設が開発機関や南ア政府の関与を得て動き出した!が、まだ調査段階。コンゴ政府は2015年10月着工と発表しているものの、遅れること間違いなし。資金は「民間」からとのことだが、ファイナンスできるの? マネージメントは? 問題山積。。。それでも周辺国にとっても垂涎のプロジェクト★グラン・インガをバックに、中島みゆきが歌う日が来るのであろうか???



↑稼働中のインガ第1ダム



地形はこんな感じですよ→

## Eat Bas Congo! バ・コンゴで食べる

### コンゴのソウルフード★シクワン



↑  
コンゴのウイロウ、シクワン  
(前号で紹介のBDD州と1位2位を争う)



→  
コンゴの魚肉ソーセージ、CIVACシクワン

コンゴのソウルフードと言えばシクワン! シクワンと言えばバコンゴ! ということで、今回はシクワンのご紹介です。キャッサバ粉末を発酵させて作られる、みんなの主食です。できたてはあっさり味ですが、時間が経ったものは酸味が効いて臭みもレベルアップ! ローカル度が高まります。ただこの食べ物、食べたことない人に説明するのは難しいのです。「えーと、要はウイロウみたいなもんです。」と投げやりに言うと、横にいる名古屋の方にどつかれますので要注意! ☆

そして最近のキノワ(キンシャサっ子)に大人気なのが、バコンゴ(キンペセ)にあるCIVAC社の製品。はちみつ、パイナップルジャム、しょうがジュース、ピーナッツペーストなどなど、様々なラインナップでコンゴ食品を製造しています。…あれ? 魚肉ソーセージかと思ったら、なんとシクワンのパックもあります! どうしても日本でシクワンが食べたいあなた! CIVACシクワンをお土産にどうぞ!!

コンゴの新婚旅行人気No.1スポット、「マタティ橋」。吊橋特有の力強く優美な姿、その下を流れる雄大なコンゴ河。新たな人生の始まりに記念撮影するのに絶好のロケーション！全長722mのアフリカ最大の吊橋である「マタティ橋」は、1983年、日本の円借款で完成。当時の日本の最新技術を総動員するとともに、コンゴ人と協働しての建設。現在も30年以上経ったとは思えないピッカピカ☆の橋。じゃあ、後何年使えるの？「適切なメンテナンスすれば170年は大丈夫！」との専門家の声。じゃあ、やるしかない！というわけで、「マタティ橋維持管理能力プロジェクト」がスタート。維持管理機関のバナナーキンシャサ交通公団(OEBK)の職員とともに、専門家が点検マニュアルを更新。新たに機材も導入し、メンテナンス能力はますます向上！でも、コンゴでは内戦も経験したのにどうしてこんなに良い状態が維持できたの？それにはマタティ橋だけの秘密が！その秘情報を今回から一挙公開！

遡ること今から31年の1983年5月21日、マタティ橋の開通式典が盛大に行われました。式典には、モツツ大統領(当時)をはじめとするコンゴ政府の高官及び日本側関係者が晴れがましく出席。マタティ市民のほとんどが「渡り初め」を是非とも体験！と橋に詰めかけました。その1年後には、皇太子殿下ご夫妻(天皇・皇后両陛下)もマタティ橋を訪問され、「まさにコンゴと日本の架け橋ですね」との心のごもったご感想を述べられました。これが日本人とコンゴ人との信頼と協力によって生み出された友好の証し、マタティ橋のスタートでした。しかし、1991年9月のとある日の早朝、キンシャサで暴動発生！！マタティ橋の運命はいかに？(続く)



コンゴと日本の国旗が！



高所作業車で点検作業も効率アップ★

今回の連載には、建設当時のマタティ橋関係者の皆様にご協力いただいております。



「定点観測」@キンペセ

コン月のイベント

事務所立ち上げ直後の2007年から2009年まで、JICAはバコンゴ州キンペセでコミュニティ支援プロジェクトを行っています。紛争終結直後のタイミングを逃さず、さまざまな取り組みをしたプロジェクト。今回、その教訓をキンペセで継続的に探っていく「定点観測」調査をすることになりました。プロジェクト終了から約5年が過ぎて、コミュニティはどうなってるでしょうか。



道路は…もうちょっとメンテが必要かな～。



牛耕は商売繁盛！

支援した約20の村を回っていると、「プロジェクトで始まった牛耕ビジネスはうまく行ってるよ！」、「野菜の共同栽培は種が買えなくてやめちゃったんだ。」、「道路はもっとちゃんとメンテナンスしないと！」などの声。ふむふむ、みなさんの暮らしは変わりましたか？「プロジェクトを通じて、他の人と一緒に働くことの大切さを学んだんだ。一人ではできないことも、みんなであれば実現できる。共同栽培はやめちゃったけど、同じグループで新しい活動を始めたよ。」との答え。

日本人専門家が伝えなかったのはきっとそういうことなんだよ！これからも頑張って！また来るね！と後ろ髪を引かれつつ、調査団はシクワンを食べに街に帰るのでした。

愛すべき？コンゴ人

編集後記



久野真一/JICA  
所属: コンサルタント  
氏名: イレーヌさん

キンペセのコミュニティ支援のプロジェクトを現地できっとしていたイレーヌさん。今も、キンペセに行く度に、サイトを案内してくれます。

日本語の勉強、食堂の経営と向上心あふれる素敵女子☆

昨年結婚し幸せいっぱい。末永くお幸せに！！

<☆今月のインガラ語☆> 「ムラ ヤシカ」

まさに、今月らしい表現。キンシャサっ子も「ヤシカ」なものが大好き！

前号の答えは、「○○エザ! コンボラ テ」=「○○が動きません」。水が出ない、電気がつかない！といったときに使いましょう。使ったからといって、どうにかなるわけではありません(涙)

2015年はバ・コンゴ特集からスタート！新規連載は、涙なしには語れないマタティ橋ヒューマンドラマ。コンゴにいるとヒトとヒトの繋がりの深さに感動させられます。今年も、皆様とのつながりを感じつつ、身近なコンゴを現地直送！本年もどうぞよろしくお祈りします！